

- ◆企画名 peer 憩いの場 “はねやすめ”
日 程 平成 27 年 11 月 1 日（日）～11 月 4 日（水）
場 所 総合学生会館凜風館 1 階 ピアエリア、グローバルエリア、ライティングエリア
参加者数 11 名（ピア・サポータ 8 名、研修生 3 名）
目 的

- ・学園祭という関西大学に大勢の人々が集う機会を利用し、ピア・コミュニティについて気軽に知ってもらえる場を設ける。
- ・また、来場者のために、ゆっくり座って休憩したり、買ったものをゆっくり食べたり、学園祭をより楽しむためにもちょっと一息つける場所を提供する。

内 容

以下の日程で、ピア・コミュニティの広報活動と休憩所の運営を行った。（第 38 回関西大学統一学園祭 一般企画として）

11 月 1 日（日）～4 日（水） 10:00～16:00（最終日のみ 15:00 まで）

- ・ホワイトボードにラミネート加工したコミュニティ紹介資料を貼り、自由に見てもらえるようにした。
- ・昨年度の広報・掲示活動で作成したポスター・資料・各コミュニティから提供された実際の企画写真などをホワイトボード、衝立などを利用して掲示をした。
- ・当企画そのものを知ってもらうため、ポスターを貼ったホワイトボードを凜風館の入口に置き、宣伝を行った。
- ・その他、質問対応・巡回をした。

効 果

- ・展示の説明を見学者にしたところ、KUSP に対し興味を持った人がいた。
- ・昨年度と比べ、利用者が大きく増えて（今年度 1083 名、昨年度 556 名）、多くの来場者にピア・コミュニティについて知ってもらい、且つ休憩所としての場所を提供できた。
- ・企画に参加してくれた他コミュニティの協力者との親交を深めることができた。

改 善 点

- ・屋外への広報が足りず、休憩所の存在を知らない人が凜風館横の階段に座って飲食していた。
→あらかじめ、準備・申請をして屋外に看板、ポスターなど目立つものを置いておくべきだった。
- ・当日、展示を見てくれた学生にどう対応すればよいか分からなかった。
→対応マニュアル、説明をあらかじめ用意しておくべきだった。

感 想

今回学園祭で企画を行ってみて、当日までの準備は昨年度のノウハウがあったので、予定どおりに進めることができた。また、参加してくれた他コミュニティの方と仲良くなったり、自分たちが行った活動の写真を来場者が見てくださっていたことで、様々な方々にピア・コミュニティについて知ってもらうことができ、本企画の目的を達成できたように思う。

しかし、新しい要素を考える時間ではなく、昨年度の企画をもとにしているため、昨年度と違った新しい何かがありませんでしたと感じた。来年度も行うのであれば、企画の準備を早めから始め、何か新しい要素を増やし、さらに充実したものとなるよう工夫していきたい。